



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第一五二号〜

清明

四月五日

金剛證寺本堂

伊勢神宮の鬼門を守るとされる金剛證寺は朝熊ヶ岳の頂き近くに建ちます。その創建は欽明天皇の六世紀までさかのぼると伝わる古刹です。

その後、弘法大師空海が真言密教の根本道場を建て、さらに鎌倉時代には仏地禪師が再興し、臨済宗のお寺に改宗されます。また、標高五〇〇メートルにあるお寺は、火災にもたびたびあっていますが、本堂は慶長二（一六一〇）年に徳川家康が姫路城主・池田輝政に命じ、再興された建物で、国の重要文化財になっています。

平成六年に平成の大修理をおえた本堂は、檜皮葺屋根の堂々たる風格です。今回は、本尊が置かれた内陣に入らせていただきました。

内陣は、金色に輝く特別な場所でした。使用された金箔は一〇センチ四方のものが九〇〇枚といえますから、贅沢な造りです。また、柱の金箔とは違い、少しオレンジ色の部分は、白檀塗といって、銀箔に漆をかけた桃山期の技法。金箔だけでなく銀箔も使っていたのです。

本尊の虚空蔵菩薩は秘仏で、伊勢神宮の式年遷宮の翌年に開帳される、式年開帳を行います。やはり神宮ゆかりのお寺なのだと感じしていたら、本尊をおさめた厨子の後ろには、天照大神をまつる社殿がありました。厨子に供えてあるのは花ではなく、緑の榊。外から見るとわかりませんが、神仏習合の形がここに伝っています。

江戸時代に伊勢参宮をした後に、この寺へ訪れた俳人の松尾芭蕉は、こんな句を詠みました。

神垣や思ひもかけず涅槃像

お寺の方によると、芭蕉は伊勢神宮の奥宮だと思って来たら、本堂にかかると涅槃像を見て驚いた一句だということです。芭蕉の驚きに納得する春の一日でした。

文 千種清美

